
東北大学陸上競技部

OB通信

2014年 No5 (2014.11)

- ・ 第 29 回国公立 24 大学対校陸上競技大会
男子総合 6 位、トラック 11 位、フィールド 5 位
女子総合 19 位、トラック 14 位、フィールド 16 位
 - ・ 第 32 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
鈴木絢子 (4) が東北学連選抜チームとして出場し、5 区で快走
 - ・ 秩父宮賜盃第 46 回全日本大学駅伝対校選手権大会
東北大学は総合 23 位、5 時間 47 分 08 秒
-

- ・ 秋季三秀総会のお知らせ
日時 12 月 14 日 (日) 16 時 30 分～ (幹事会 : 14 時 30 分～)
場所 幹事会 ; 片平キャンパス 片平北門会館 北門エスパス
総会 : 片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟 1F 講義室
-

- ・ 第 43 回東北学生陸上競技選手権大会 2 ページ
- ・ OB・OG 対現役対抗戦 3～6 ページ
- ・ 第 29 回国公立 24 大学対校陸上競技大会 6～14 ページ
- ・ 第 32 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 14～15 ページ
- ・ 秩父宮賜盃第 46 回全日本大学駅伝対校選手権大会 15～19 ページ
- ・ 2014 年度 秋保マラソン 19 ページ
- ・ 自己記録更新者一覧 19～20 ページ
- ・ 秋季三秀総会のお知らせ 20 ページ
- ・ 今後の予定 20 ページ
- ・ 編集後記 20 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第46回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会での選手の活躍をお伝えします。

○第43回東北学生陸上競技選手権大会(10/3～10/5) 於 仙台市陸上競技場

今大会は三日間で天候に波のある中、各選手健闘し安定した結果を残すことができました。決勝の結果一覧を掲載します。

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
男子100m	—	1位	宮崎 幸辰(2)	10"45(+3.8)
男子400m	—	2位	南 共哉(M1)	49"18
男子800m	—	2位	佐藤 洋介(3)	1'59"50
男子1500m	—	2位	西京 毅(2)	4'04"54
		6位	大野 慎也(3)	4'08"88
男子5000m	1組	3位	近藤 一樹(4)	16'15"66
		4位	関 俊樹(1)	16'20"45
	2組	5位	西京 毅(2)	15'38"49
	3組	4位	藤澤 萌人(M1)	15'03"61
		7位	本間 涼介(2)	15'12"42
男子10000m	—	1位	高橋 佳希(3)	32'04"25
男子110mH	—	6位	向川 周太(M1)	15"51(+2.0)
		7位	本間 大輔(4)	15"58(+2.0)
男子400mH	—	8位	増田 俊太郎(3)	58"38
男子3000mSC	—	8位	南雲 信之介(3)	9'56"87
男子4×400mR	—	8位	佐藤 洋介(3)-西京 毅(2)-辻川 優佑(M2)-田中 翔悟(2)	3'26"39
男子棒高跳	—	2位	高橋 拓実(2)	4m70
男子砲丸投	—	7位	箕輪 純尚(2)	10m26
男子円盤投	—	5位	石川 遼(4)	33m29
男子混成十種競技	—	3位	高橋 拓実(2)	5570点
		6位	佐藤 弘隆(2)	5503点
		8位	藤井 翼(M2)	5445点
女子5000m	—	1位	鈴木 絢子(4)	17'36"08
女子400mH	—	8位	下島 千歩(M1)	1'10"97
女子4×100mR	—	7位	吉村 梢(1)-加藤 かあら(2)-渡 邊 朝美(2)-井出 桃愛(3)	52"55
女子4×400mR	—	6位	下島 千歩(M1)-吉村 梢(1)-井 出 桃愛(3)-加藤 かあら(2)	4'09"15
女子円盤投	—	3位	青木 千景(2)	32m15
女子混成七種競技	—	4位	渡邊 朝美(2)	3902点

〇OB・OG 対現役対抗戦(10/18)

今年もたくさんのOB・OGの方に参加していただきました。結果を掲載します。

・トラックの部

氏名	100m(秒)	得点	1500m(秒)	得点	400m(秒)	得点	走最高得点
千葉 優人	11.56	741	291.97	608		0	741
岡部 大輝	12.42	572		0		0	572
岡崎 和貴	11.75	702		0		0	702
南 共哉	11.33	790		0	52.12	720	790
本間 大輔	11.77	698	294.79	591	70.01	138	698
奥 裕之	12.23	607		0		0	607
石川 遼	11.88	676	364.93	245		0	676
向出 周太	11.57	739		0		0	739
佐藤 文哉	11.83	686		0		0	686
宮澤 拓也	11.84	684	270.91	740	53.38	666	740
西京 毅	13.2	435	268.05	758	56.87	527	758
田中 翔悟	12.51	555	262.38	796	54.34	627	796
工藤 航平	12.73	516		0		0	516
進藤 克哉	13.23	431	262.66	794	58.35	472	794
落合 祐規	12.61	537		0		0	537
千葉 智史		0	275.35	711		0	711
彦坂 幸毅	13.32	416		0		0	416
高橋 龍星	13.83	338	277	700		0	700
早坂 謙児	13.96	319	272.4	730	61.15	376	730
渡邊 俊	12.67	526	280.47	678	55.87	565	678
渡邊 裕一郎	12.7	521		0		0	521
藤原 啓		0	280.83	676		0	676
楠木 啓介	12.55	548		0		0	548
吾妻 祐介	13.32	416	287.61	634	61.67	359	634
熊谷 駿		0	280.66	677		0	677
吉田 真人	13.85	335	297.16	577	64.23	282	577
津嶋 優希	12.9	486		0		0	486
大衡 竜太	12.22	609		0	63.36	307	609
大野 慎也	13.65	364	261.53	802	59.42	434	802
根津 勇介	14.35	265	292	608	66.92	209	608
富田 航	13.93	323	297.83	573	62.81	324	573
森 渉	13.63	368	295.32	588	62.06	347	588
荻原 大樹	13.47	392		0	59.2	442	442
増田 俊太郎	12.97	474	289.11	625		0	625
佐藤 弘隆	12.42	572		0		0	572

高橋 慧伍	14.15	292		0	60.51	397	397
宝田 拓馬	14.43	255	318.99	456	65.37	250	456
小幡 卓哉	12.27	600		0		0	600
佐藤 雄也	14.66	226		0		0	226
箕輪 純尚	14.53	242		0		0	242
関 俊樹	14.58	236		0	61.89	352	352
西井 大樹		0	301.45	552		0	552
矢川 省吾	12.68	524		0		0	524
柴田 智弘		0		0	59.15	444	444
藤井 佳祐		0		0		0	0
竹原 大	13.83	338		0		0	338
真山 隆徳	15.7	115	350.13	307		0	307
南波 惇輝		0	307.09	521		0	521
村田 晃太郎		0	402.22	119		0	119
女子の部							
渡邊 朝美	14.17	579		0		0	579
青木 千景		0	350.97	523		0	523
浅見 恭子		0	365.31	449		0	449
卜部 仁美	16.45	278	333.39	620		0	620
吉村 梢	13.93	616		0		0	616
加藤かあら	15.2	431		0		0	431
山田 千夏	16.73	248	356.79	492		0	492
吉田 歩	16.85	235	402.22	283		0	283
井出 桃愛		0	341.01	577		0	577
後藤 文子		0	390.39	332		0	332

・フィールドの部と総合得点

氏名	幅	得点	高	得点	最高得点	砲丸	得点	円盤	得点	最高得点	総得点
千葉 優人	620	631	155	427	631	7.39	331	21.99	311	331	1703
岡部 大輝	650	698		0	698	8.56	401		0	401	1671
岡崎 和貴	620	631		0	631	7.22	321	21.31	298	321	1654
南 共哉	579	543	0	0	543	7.12	315	15.48	190	315	1648
本間 大輔	630	653	150	390	653	6.77	295	15.97	199	295	1646
奥 裕之	576	536	180	628	628	7.72	351	21.38	299	351	1586
石川 遼	505	393		0	393	10.09	492	32.37	512	512	1581
向出 周太	558	499		0	499	7.59	343	17.33	223	343	1581
佐藤 文哉	577	538		0	538	6.76	294		0	294	1518
宮澤 拓也	565	513	150	390	513	5.79	238	16.68	212	238	1491
西京 毅	511	405	155	427	427	6.74	293	18.46	244	293	1478

田中 翔悟	519	420	150	390	420	6.12	257	12.48	136	257	1473
工藤 航平	554	491	155	427	491	9.55	460	22.45	319	460	1467
進藤 克哉	500	383	125	219	383	5.93	246	16.68	212	246	1423
落合 祐規	547	476		0	476	8.53	399	22.09	312	399	1412
千葉 智史	522	426		0	426	5.78	237		0	237	1374
彦坂 幸毅	513	408	170	545	545	8.39	390	16.49	208	390	1351
高橋 龍星	493	370		0	370	5.14	200		0	200	1270
早坂 謙児	476	338	120	189	338	5.11	198	16.07	200	200	1268
渡邊 俊	518	418		0	418		0	12.78	141	141	1237
渡邊 裕一郎	519	420		0	420	6.61	285		0	285	1226
藤原 啓	439	272		0	272	6.47	277	13.89	161	277	1225
楠木 啓介		0	150	390	390	6.01	250	16.55	209	250	1188
吾妻 祐介	459	307	135	284	307	5.19	203	12.35	134	203	1144
熊谷 駿		0	135	284	284	4.7	175		0	175	1136
吉田 真人	484	353		0	353	5.15	201		0	201	1131
津嶋 優希	495	374		0	374	6.29	267	13.83	160	267	1127
大衡 竜太	566	515	150	390	515		0		0	0	1124
大野 慎也		0	135	284	284		0		0	0	1086
根津 勇介	423	245	130	251	251	5.04	194	13.57	155	194	1053
富田 航	474	334	120	189	334	4.2	146	11.95	127	146	1053
森 渉	435	265	0	0	265	4.39	157	10.5	102	157	1010
荻原 大樹	457	304		0	304	6.06	253	16.24	203	253	999
増田 俊太郎	495	374	125	219	374		0		0	0	999
佐藤 弘隆		0		0	0		0	24.08	350	350	922
高橋 慧伍	478	342	0	0	342		0	14.83	178	178	917
宝田 拓馬	438	270		0	270		0	15.45	189	189	915
小幡 卓哉		0		0	0		0	18.48	245	245	845
佐藤 雄也	390	191		0	191	8.86	418		0	418	835
箕輪 純尚	318	89		0	89	9.96	484		0	484	815
関 俊樹	398	204		0	204	5.63	228	12.09	129	228	784
西井 大樹	318	89		0	89	3.75	121		0	121	762
矢川 省吾		0		0	0		0	16.79	214	214	738
柴田 智弘		0		0	0	6.33	269	14.99	181	269	713
藤井 佳祐	530	442	140	318	442	6.05	253	13.86	161	253	695
竹原 大	482	349	135	284	349		0		0	0	687
真山 隆徳	297	63		0	63	4.64	171		0	171	541
南波 惇輝		0		0	0		0		0	0	521
遠藤 久則	380	175		0	175	6.43	275		0	275	450
須藤 海		0		0	0	8.56	401	28.85	443	443	443

佐々木 優人		0		0	0	8.71	409	19.85	270	409	409
山田 健太郎		0		0	0	7.07	312	20.1	275	312	312
佐藤 源之		0		0	0	6.94	305	17.94	235	305	305
渡辺ゆうき		0		0	0		0	21.23	296	296	296
宮崎 鉄男		0		0	0	5.36	213		0	213	213
女子の部											
渡邊 朝美	475	493	150	622	622	9.1	472	20.44	287	472	1673
青木 千景	394	295		0	295	8.28	418	32.31	507	507	1325
浅見 恭子	427	372	140	513	513	6.7	317		0	317	1279
卜部 仁美	353	207		0	207	5.21	222	14.09	174	222	1049
吉村 梢	436	394		0	394		0		0	0	1010
加藤かあら	337	175		0	175	5.56	244		0	244	850
山田 千夏	328	158		0	158	4.79	196	9.67	100	196	846
吉田 歩	370	243	110	223	243	5.81	260	16.6	218	260	786
井出 桃愛		0		0	0	4.92	204		0	204	781
後藤 文子		0		0	0		0	14.78	186	186	518

○第 29 回国公立 24 大学対校陸上競技大会(10/24～10/26)

於 栃木県総合運動公園陸上競技場

ちょうどよい気温で風もあまりない、良いコンディションの中で大会が行われました。対抗選手の健闘した様子と結果をお伝えします。

◎トラック

男子 100m 予選

6 組 7 着 櫻井 直輝(2) 11" 57 (-1.0)

スタートからピッチで刻んでいく走り。20～30m あたりで体がぶれる。後半の動きが少し小さくなる。後半のもうひと伸びがほしかった。

8 組 1 着 宮崎幸辰(2) 10" 89 (+0.4)

最初から速かったが流しているように見えるような余裕の走り。ストライドも伸びていた。順調に次にコマを進める。

男子 100m 準決勝

2 組 1 着 宮崎幸辰(2) 10" 59 (±0.0)

低い姿勢から 30～40m で加速。80～90m あたりでスピードを落とし、流してゴール。調子がよさそうだった。

男子 100m 決勝

1 着 宮崎幸辰(2) 10" 53 (+0.2)

低い姿勢からスタート。周りを寄せ付けずそのままゴール。セカンドベストの好記録であったがもっと上を狙っていたのか本人はあまりうれしくなさそうだった。

女子 100m 予選

3 組 6 着 千葉愛里沙(4) 14" 15 (+1.0)

スタートで少し浮いてしまったのか加速しきれずにずるずるとしたレースになってしまったが後半までピッチを維持することができていた。

4 組 6 着 吉村梢(1) 13" 37 (-0.4)

スタートからの加速がうまくいった。少し前の人を追って、引っ張ってもらう展開であったため攻めた走りができた。

男子 200m 予選

2 組 7 着 矢川省吾(1) 23" 31 (+0.6)

スタートはスムーズ。最初の 100 はまともだったが後半はかたい走りではなかなか

ストライドが伸びない。手足のリズムがばらついてた。

5組8着 櫻井直輝(2) 24" 08 (+1.2)

前半を抑えたのか櫻井らしいピッチはなかった。後半の伸びも思ったよりはなかったがフォームの大きなくずれはなかった。

女子 200m 予選

2組4着 吉村梢(1) 26" 84 (+2.5)

スタートの反応は良く、前半のまとまった走りのまま後半まで行けた。後半、フォームのくずれはなかったがストライドの伸びはなかった。

男子 400m 予選

2組5着 矢川省吾(1) 52" 07

前半からスピードにのり、200mまでは積極的に前に出ていたが200mを過ぎてから内側の選手に抜かれ、そこから極端に動きが悪くなった。前半の力みが特に目立った。

4組4着 菅原大志(3) 52" 57

100mで内側の選手に抜かれ、必死についていこうとしたがラスト150~100mで上体が上がってしまい、伸びてこないままそのままゴール。自分のペースでレースを組み立てるべきだったように感じる。

8組5着 竹原大(3) 51" 61

前半はかなりゆったりリラックスして入ったが、上体だけ突っ込んでおりややバラバラな走り。そのまま遅れてラスト100mに入り、ピッチを上げて追い上げたが差が広がったため追いつかなかった。

女子 400m 予選

1組2着 加藤かあら(2) 1' 00" 35

スタートから100mはかなりゆっくり入ったが、バックストレートからはストライドを活かしてリラックスして走れた。最後まで走りがばらけることなくしっかり走りきることができていた。

女子 400m 決勝

8着 加藤かあら(2) 59" 67

スタートで周りに遅れをとったが、スト

ライドとピッチをキープして後半まで落ちずに走り切った。前とは放されてしまったがダレることなく59秒台でゴールできた。

男子 800m 予選

4組5着 田中翔悟(2) 2' 02" 61

1番外側からのスタートとなったが出遅れることなく100m過ぎから先頭を引っ張る。300m地点では2番手に後退するが落ち着いてレースを進め400mを58"で通過。その後2人に抜かれ、700mではやや疲れが見えた。600mまで良いレースを見せていただけに残念。

6組4着 辻川優佑(M2) 2' 00" 08

序盤から集団の5,6番手でレースを進め、他の組からはやや遅い59"で400mを通過。500m過ぎから集団が5人の縦長になるがその5番手でレースを進める。最後は前のラストスパートに対して粘りの走りを見せる。

8組2着 佐藤洋介(3) 1' 58" 44

スタート前から落ち着きを見せる。いつも通りのスタートをして5番手でレースを進める。400mを58~59"で通過。前を伺いつつ500m過ぎから少しずつスピードを上げていく。ラスト150mで3番手だったが落ち着いてスパートして1人かわし予選通過。

男子 800m 準決勝

3組 佐藤洋介(3) DNF

7レーンからのスタート。100mを過ぎたところで足をつって泣く泣く途中棄権。

女子 800m 予選

1組3着 井出桃愛(3) 2' 28" 25

この組は初めから2人が飛び出し、単独3番手でレースを進めた。後ろとも割と距離があり、自身との勝負になる展開。300mを過ぎても3番手をキープしつつ400mを72"で通過した。ラスト100mは4番手の選手と3番手争いをした。みごとラストに勝利し、3番手でゴール。

男子 1500m 予選

1組2着 西京毅(2) 4' 03" 60

スタート後は後方でレースを進め、400過ぎから2位集団につける。2位集団後方でラスト1周を通過するとスルスルと追い上げ、最後は競り合いを制し2着でゴール。

3組4着 三上和樹(M1) 4' 05" 39

終始、全体のなかほどで落ち着いてレースを進める。6番手ほどからラスト300mで徐々に追いつけるが惜しくも4着でゴール。

4組2着 大野慎也(3) 4' 04" 49

レース序盤は集団のなかほどでレースを進め、800m過ぎから徐々に前を伺う。ラスト400mで3番手まで上がると最後の100mで1人をおかわし、2着でゴール。

男子 1500m 決勝

9着 大野慎也(3) 4' 06" 11

12着 西京毅(2) 4' 15" 43

西京は一周目を7番手でまわり、先頭に食らいつく走りをしていたが、2周目からは徐々に離れはじめ集団から大きく間をあけて最下位でゴール。最後まで粘りを見せることができず、予選、決勝と1日2本のレースで疲れがみえた。

大野は序盤では先頭の大きな集団の最後尾付近につけて1周目を62"で通過、その後集団がややスローになり2、3人抜いて800mを2'10ほどで通過した、先頭が1000mをこえたところで急激にペースをあげ、集団がばらけ始める。残り250mあたりでスパートをかけるが1、2人をおかわすに留まり9位でフィニッシュし入賞には届かなかった。

男子 5000m 決勝

2組10着 関俊樹(1) 15' 51" 98

2組13着 早坂謙児(2) 16' 55" 61

スタートから早坂は最後方、関は中ほどでレースを進める。400mの通過は72"ほどで集団は縦に伸びている。1000m通過時点で早坂は100mほど離れている。関は11位の集団の先頭に着けている。2000mでは関は依然として集団につけている。早坂は1人旅。3000m、関は縦に伸びた集団の後方あ

たり、早坂はまだ1人旅である。4000mでは集団の先頭に関が上がってきており、早坂は後ろから来たものについて走っている。関はラスト1周で疲れが見え、競り負けてしまう。早坂はラストをうまく上げ、自分なりにまとめてゴール。関はラストは残念だったが集団でうまくレースを進めることができた印象。早坂は10000mWの疲れがあり、あまりうまく走れなかった印象。

男子 10000m 決勝

2組11着 進藤克哉(3) 33' 39" 15

2組17着 西井大樹(4) 35' 52" 32

西井は序盤から集団から離れて走り、3km通過頃から3'40"/kmペースまで落ちてしまった。その後は最後尾で山梨大の選手に付き、ペースを保つ。5km過ぎで一度前に出るが、一人で上げることができずにすぐに追い付かれた。ラスト3kmは3'35"/kmを切るペースに上げて山梨大を振り切り、35'51"でフィニッシュ。辛うじて最下位・36分台は免れる結果となった。貧血を克服することが望まれる。

スタートで進藤は第2集団につける。常に先頭から2、3人後ろの好位置で走り、1000mは3'13"。その後も集団内で一周78~79"の安定したペースを刻み、5000mは16'22"で余裕を持って通過、6000mまでの1kmも3'17"と、32分台も濃厚かに見えた。しかし、6000m過ぎから突然足の痙攣が襲い、ペースを急激に落としてしまう。途中足を引きずるような仕草も見せたが、なんとかペースの落ちを食い止め、最後まで粘って33'39"の自己ベストでフィニッシュ。

男子 3000mSC

1組14着 高橋仙一(2) 9' 42" 16

序盤は集団の最後尾でレースを進める。1000mは3'10"で通過。その後大きな集団が2つに分かれ、高橋は10位集団の後ろにつける。まだ余裕はありそうな様子で少しずつ抜いていき順位を上げる。2000mは6'

27"で通過し、10位集団の中ほどにつける。やや疲れが見えるが粘り、ラスト300m付近からスピードをあげてゴール。

2組18着 熊谷駿(2) 10' 39" 92

2組23着 高橋慧伍(3) 10' 59" 33

序盤、高橋は集団の中ほどにつけ、熊谷は集団から少し距離をあけて最後尾でレースを進める。2人とも落ち着いた様子。高橋は少し順位を下げ、熊谷は集団の後方をキープした状態で1000mを通過。高橋と熊谷の差はやや縮まり、高橋には少し疲労が見える。1900mで高橋と熊谷の順位が入れ替わる。熊谷はまだ余裕がありそう。高橋は前の1人をとらえ、粘っている。ラスト一周、熊谷はまた1人抜いてゴール。高橋は3人の集団の中で粘り、ゴールした。

男子110mH 予選

1組3着 工藤知央(3) 15" 39 (-0.3)

スタートで少し出遅れたが1台目はスムーズ。3位をキープしてそのままゴール。後半は少し肩が上がり気味だったがフォームをキープすることができていた。

3組5着 向出周太(M1) 16" 09 (-0.8)

1台目はスムーズだったがあまり足が上がりず、後半にかけて厳しいレースになった。リズムのキープに問題があるようだ。

4組5着 佐藤弘隆(2) 15" 91 (+1.2)

速い組であったため最初から離されたが、自分のリズムをキープして走ることができていた。ハードルにぶつかることが多く、高いハードルに慣れていないように思えた。

男子110mH 決勝

6着 工藤知央(3) 15" 11(+1.8)

スムーズなハードリングで予選よりもスピード感のある足さばきであった。大会新記録が2つ出るハイレベルなレースの中、周りに引っ張られるかたちではあったが自分のリズムをしっかりとキープすることができていた。

男子400mH 予選

1組1着 工藤知央(3) 55" 39

スタートから飛び出してそのまま独走し、1位通過。ハードリングミスなどもなく気持ちのいいレースだった。

5組3着 佐藤弘隆(2) 55" 43

スタートは軽快でそのリズムのままバックストレートを通したが、第3コーナーを過ぎたあたりから足が合わなくて苦しうだった。全体的にハードリングが上に行き過ぎていた印象を受ける。タイムは悪くなかったが惜しくも決勝にはいけなかった。

6組4着 楠木啓介(1) 57" 64

スタートから大きなストライドで余裕をもってバックストレートを通す。そのままの勢いでゴールまで行った。後半はハードリングがきつそうではあったが大きなくずれないまとまったレースだった。

男子400mH 決勝

5着 工藤知央(3) 54" 77

最初から攻めたレース展開だった。周りの選手も序盤からがんがんきっていたため、それに合わせてバックストレートを通す。第3コーナーから疲れが出て遅れ始めたが、ハードリングはしっかりこなしてラストまで踏ん張った。最後は顔が上がりフォームがくずれたが、熱いレースだった。

男子10000mW 決勝

6着 早坂謙児(2) 48' 18" 38

13着 森 渉(1) 59' 21" 79

早坂、森は序盤は第2集団でレースを進める。最初の1000mを早坂は6位で4'30"で通過、森は5'30"。早坂は6位の位置で2人の集団でレースを進める。2000mの通過は9'12"。集団を作っていたもう1人にやや離される。森は単独で歩く。3000mを早坂は14'00"で通過。前の6位の選手との距離は離れて単独でのレースになっている。森は少し前傾斜してきた。5000m過ぎ、早坂は順位を1つ下げて8位に。森は少し元気を取り戻し、歩型の乱れが少なくなった。

7000m 付近、早坂は苦しい顔をしているが歩くリズムはまた戻ってきたように見える。腰がやや下がり気味。森は自分のペースで歩いている。2 人とも単独のレースではあるが落ち着いている。ラスト 1 周のバックストレートで一気にスピードを上げてゴール。

男子 4×100mR 予選

1 組 7 着 43” 28

大衡(1) - 櫻井(2) - 竹原(3) - 矢川(1)

1 走の大衡は反応の良いスタートから軽快に飛び出す。周りに劣らない走りで 2 走に危なげなく渡す。2 走の櫻井は良い感じでバトンを受け取る。加速もスムーズにきまる。ピッチ走法がいつも通りにできているが、ストライドはいつもより広くて好調な走り。インレーンの選手に詰められる。3 走の竹原もバトンパスはうまくきまるが 400 の疲れがあったためか流しのような走りになってしまう。4 走の矢川はバトンが少し離れてしまい危なかった。加速がうまくいかず、必死な走りで動きが堅かった。

女子 4×100mR 予選

1 組 4 着 51” 88

吉村(1)-加藤(2)-渡邊(2)-千葉(4)

1 走の吉村はスタート直後はピッチ、徐々にストライドを伸ばして加速する。周りと同じくらいでバトンパス。まとまった走りだが少しおとなしい。2 走の加藤は 400 の疲れが出たのか、前半はまとまっていたが後半にかけて手足が大振りで大振りしてしまっていた。周りの 2 走が速いこともあり他校と差がついてしまう。3 走の渡邊は少し危ない感じでバトンを受ける。周りとの差に焦ったのか走りが堅い。4 走の千葉はいつも通りピッチ走法。後半は疲れが出たのか手足がばらついた。

男子 4×400mR 予選

1 組 4 着 3’ 22” 07

竹原(3)-水戸部(1)-西京(2)-佐藤(2)

1 走の竹原は前後の大学が速いということからだいぶプレッシャーがかかったのか、前半でスピードを抑えていたもののそのまましぼんでしまう。ラスト 100m で粘るが少しつぶれ気味。2 走の水戸部は第 1 コーナーからバックストレートにかけては落ち着いた運び。隣の選手と競ったままの良い流れでホームに入って前の選手を捉えたが 3 走とのバトンがつまり気味であった。3 走の西京は前半は足が動いており飛ばしていたが、第 4 コーナーからホームにかけては接触がありつつ抜かれてつぶれてしまう。4 走の佐藤は 2 位争いに絡めるかどうか微妙なところでバトンパス。前半から前傾で攻めた走りをする。じわじわ前との差を詰め第 4 コーナー終わりで 2 位争いに加わったが前の 2 チームに先にいかれてしまう。それでも最後まで粘り、4 着でゴール。

女子 4×400mR 予選

2 組 4 着 4’ 05” 31

吉村(1)-加藤(2)-井出(3)-渡邊(2)

1 走の吉村は落ち着いた滑り出しで前半は抑え気味にリズムを刻んでいく。後半にアウトレーンの選手をとらえ、良い感じでスパートをきめた。2 走の加藤は前半少し出遅れるが巻き返し、第 3 コーナーからホームストレートでごぼう抜きをして 2 位に浮上する。落ち着いた走りで、理想的なレース展開だった。3 走の井出はスピードでは周りに劣るのか最初の 100m で 3 位チームに大差をつけられたが、後半はいつも以上に粘り、フォームのぶれも少なかった。4 走の渡邊は前半は大きく体を使えていてしっかり動いているようだった。単独走だったため切り替えが厳しく最後は堅い走りになったが最後までフォームをキープしていた。チーム全体で部記録を更新した。

◎フィールド

○跳躍

男子走高跳

4位 岡部大輝(4) 1m95

1m85 から競技を開始した岡部はこの高さを1回目で難なくクリア。バーは1m90に上がり一本目、本人曰くこの日一番の跳躍で高さを出すのが抜きのタイミングで足を引っかけてしまった。しかし続く2本目でこの高さもクリアした。バーは1m95へ上がり1回目の跳躍。タイミングが上手く合わずよく踏み切れなかったと話すがクリア。バーは2mに上がったが、1回目は助走の最後上手くのらず、2回目3回目は上手く踏み切れずに突っ込んでしまい競技終了。それでも、1m95を1回目で飛ぶ勝負強さを見せつけ4位。山田とともに対抗得点に貢献した。

6位 山田健太郎(4) 1m95

練習跳躍で助走があっっていなかったため低めの1m85からスタート。力技ではあったが1回目でクリアする。続く1m90、絶不調な助走のスピードを抑えた結果、踏切が近くなったがここも1回目で何とかクリアする。バーは1m95に上がる。1回目は精彩を欠いた跳躍になり失敗。2回目は高さは出たがこの跳躍も踏切が近くなり失敗。3回目はしっかり修正して集中した跳躍を見せて見事クリアした。バーは2mに上がったが、ここで集中力が切れたようで、3回とも失敗に終わった。不調ながらも試合の中で修正し6位に入り、対抗得点をとってくるあたりはさすがベテランである。

佐藤颯真(2) 1m80

けがが心配された佐藤は1m80からの挑戦。1回目は助走のテンポアップが上手くいかず失敗。2回目は助走が改善されたがカーブが大回りしてしまい踏切位置が合わず失敗。3回目は助走スピードが落ちたが踏切位置は合い、無理やりであるがクリアした。バーは1m85に上がったが、1回目か

ら3回目まで助走が不安定でうまく踏み切れず失敗。来年は岡部、山田が院生となるため、走高跳では佐藤の活躍が不可欠だ。

男子棒高跳び

1位 高橋拓実(2) 4m70

4m50から跳び始めた高橋、1回目で余裕をもってクリア。4m60をパスして4m70へ。他選手が4m60を失敗したため、この時点で高橋の1位が確定した。4m70の1回目、ここでも高さに余裕を残してクリア。バーは高橋の自己ベストである4m90に上がった。ここで一つ上のレベルのポールに変えて挑戦する。1回目は高さがあり跳んだかに思われたが、頂点が合わず失敗。2回目3回目はバーの一を前にして挑戦し、いずれも高さがあったが頂点が合わず失敗に終わり競技終了。跳躍練習が全く積めていない中で記録こそ悪くはないが、更なる飛躍には助走だけでなく跳躍の練習が不可欠である。

藤井翼(M2) 3m90

前日までの十種競技の疲れが残る中での試合となった藤井。安全に記録を残すためいつもより低い3m70からスタートし、1回目で難なくクリアしたが、助走と踏切にキレがなくポールの立も悪かった。続いて3m90への挑戦。バーにかする余裕のない跳躍だったがここも1回目でクリア。疲れが見える藤井は自己ベストとなる4m20へ挑む。しかし1回目から3回目まで体を引き上げることができず失敗に終わった。対抗得点は取れなかったが、院生で忙しい中、混成選手でありながらこの種目で今年もベストを更新した姿は後輩の心に深く残った。

男子走幅跳

岡崎和貴(M1) 6m70 (+0.5)

岡崎の1本目は置きにいった跳躍になり、6m70。スピードを無理に上げ力んでしまったように見えた。2本目は助走の最後で足が回らなくなり踏み切っただけで跳躍動作につなげることができず記録なし。3本目

はこの日一番の跳躍をしたかに見えたがわずかに足が出てしまいファール。以前の大会でかかとを痛めており、十分な練習を積むことができなかつたため、スピード、跳躍力とも本来の力を出せず、不本意な結果に終わった。技術以前に練習量が必要であると本人も感じているようだ。

佐藤文哉(2) 5m90 (+0.6)

1本目は助走が合わずファール。2本目は修正し踏切を合わせたがスピードが乗らず5m90と低調な記録に終わる。3本目はスピードに乗りこの日一番のジャンプを見せ好記録かと思われたがわずかに足先が出てファールに終わった。非常に悔やまれる試合であった。来季は東北大の走幅跳を引張る選手となるべく進化が待たれる。

佐藤勝成(1) 4m98 (+0.8)

1本目は力んでしまった上にスピードに乗らない助走でなおかつファールとなってしまう。続く2本目今大会の中では比較的良かったが、ここもファールとなってしまう。3本目は記録を残すためぎこちない助走になってしまった。記録は4m98。佐藤は須藤 PC のもと、全体的な体力をあげて、先輩を脅かす存在になってほしい。

男子三段跳

6位 須藤海(2) 14m36 (+1.2)

体調が万全ではない中、テーピングをしての出場となった須藤。1回目は脱力しながらも力強い跳躍をして14m24。2回目はステップでつぶれてしまい記録なし。3回目は勢いのある助走でうまく記録を伸ばし14m26。ここで須藤はトップ8に入り残りの跳躍へ進んだ。4回目は股関節が良く動き大きな助走をすることができたが、記録は3回目と同じ14m26。5回目は4回目よりさらに大きい助走を見せこの日一番の14m36と記録をのばす。最後の6回目は拍手を求めて挑んだが助走が伸びてしまい失敗した。万全では体調の中、6位に入り対

抗得点をもぎ取った姿には跳躍 PC の意地を見た。来季では自己ベストの更新が期待される。

田中悠貴(M1) 13m37 (±0.0)

地元宇都宮での試合となった田中だったが、3本とも足が合わず記録は伸びなかった。1本目は13m37、2本目は13m31、3本目は13m30だった。院生でなかなか合同練習に参加できない状況であるが、持ち前のセンスで来季も頑張ってもらいたいところだ。

小幡卓也(2) 12m83 (-0.4)

久しぶりの三段跳となった小幡。1本目は足がわずかに出てしまいファール。ステップは上手くいっていたが、ジャンプでタイミングが合わず着地もうまくいかなかった。2本目は1本目の助走をうまく調整し踏切を合わせた。しかし助走が遅いためか記録は12m83。3本目は助走のスピードを上げることを意識した結果踏切がかなり手前になった。久しぶりの跳躍で感覚の忘れもあったようだ。本人もすべての跳躍を通して課題を見つけたようだ。

○投擲

男子砲丸投

石川遼(4) 10m27

石川の1投目は砲丸がすっぽ抜けてしまいファールに。2投目も勢いがあつたが止まれず、ファールになってしまう。3投目はブロックがしっかりできており記録が残る。結果、3投目で10m27を記録する。

箕輪純尚(2) 9m88

箕輪の1投目はフィニッシュで鋭い突き出しができており9m88の記録が出る。2投目では投げるときにバランスが崩れてしまいファールになってしまう。3投目は突き出しで力が伝わっていなかった。3投目はファール。

佐藤雄也(2) 8m33

佐藤の1投目はグライドのためがなく勢

いも弱かった。これはファールになってしまう。2投目は投げた後に耐え切れず外に出てしまいファールに。3投目は記録として残るがグライドを活かして投げることができず 8m33。

男子円盤投

6位 柳澤邦彦(M2) 41m64

柳澤の1投目、2投目は久しぶりの投擲であるせいかターンが安定せず、ファールになってしまう。3投目はきれいなターンからスムーズに投げ切り、危なげなく記録を残した。4投目は記録が残らなかったが、5投目では力強い投擲で 41m64 をマークする。6投目では気合の入った投擲をするが惜しくも記録は伸ばせなかった。しかし迫力のある投げだった。

石川遼(4) 34m15

石川の1投目、軌道は低く左にそれてしまいあまり力が伝わっていなかった。2投目はターンが少しばたついてしまっていたもののパワーポジションからの投げはよく、ここで今回の記録である 34m15 を出す。3投目は記録を伸ばせなかった。

佐藤雄也(2) 22m48

佐藤の1投目は円盤がふらつき、大きく左にそれてしまう。練習が足りなかった様子。2投目は立ち投げ。動きはゆっくりで、またも左にそれてしまいファールに。3投目は記録を残したが腕だけで投げていた。

女子円盤投

青木千景(2) 25m71

青木の1投目は円盤が右にそれてしまう。左足が左につきすぎてパワーポジションがくずれてしまう。2投目は1投目に比べてターンは悪くなかったが左足が少し出てしまい、ファールになってしまう。3投目は記録が残ったものの円盤がぶれてしまい角度も低く、満足のいく結果が出なかったようだった。

男子ハンマー投

石川遼(4) 31m61

石川の1投目はハンマーを少し引っ張りすぎたようにも見えたが好記録を出す。2投目は体が右に傾いてしまう。自ら前から出てファールになる。3投目は動きに勢いがあり良かったが地面にハンマーが当たってしまった。

田附遼太(M2) 25m46

田附の1投目はターンにスピードがなく、ふわふわしていた。ここで 25m46 を出す。2投目はハンマーを引っ張りすぎてファールに。もう少し姿勢を低く保ちたいところ。3投目はターンがぎこちなく、ハンマーが加速されていなかった。

酒井利晃(4) NM

酒井の1投目はバランスを崩してしまい左方向へ進み、転倒。2投目はターンの回転数がずれてしまい、サークルからでてファールに。3投目もターンを修正できず、記録を残すことができなかった。

男子やり投

伊藤泰彬(4) 47m64

伊藤の1投目は全体的に低調な投げ。助走のスピードや腕の振りきりをもっとはやくしていきたいところ。2投目の角度は低く、助走のスピードも上がらない。自ら線を踏んでファールに。3投目は記録を残すが記録は伸びない。部分的に悪いというわけではなく全体的に修整が必要。

工藤航平(2) 47m28

工藤の1投目は練習の投擲よりも良かったが、やりに力が伝わっておらず投射角も低かった。2投目は助走スピードが遅く、さらに最後の2, 3歩でブレーキがかかってしまっていた。もう少し勢いがほしい。3投目は気合をいれてスタート。ブロックができずに肘ががたついてしまったために上体だけで投げることになるが勢いでかろうじて 47m にのせた。

男子混成十種

5位 藤井翼(M2) 5630点

十種競技には入賞を目指して藤井が出場。100mで無難な滑り出しを見せるが、得意の走幅跳で大きなミスをして失速。残りの種目は最低限の記録でまとめ初日は6位で二日目へ挑む。二日目は110mHと円盤投で好記録を残し、得意の棒高跳で3位まで順位を上げた。苦手なやり投で順位を落としたものの1500mを気合で走りきりセカンドベストで5位入賞を果たした。過酷な十種競技を毎回戦い抜く姿は後輩に大きな感動を与えていた。

女子混成七種

8位 渡邊朝美(2) 4166点

渡邊はトラックでは800mでトップ、フィールドでは走高跳、砲丸投の両競技で2番目の記録をマークし、他の選手と差をつけるがやり投げで大きく差をつけられてしまう。他の競技ではあまり他の選手との差を詰めることができず8位という結果に。やり投げに関しては投げ方が統一されていなかったため、まだまだ改善の余地がありそう。100mHは周りの選手が速かったためあまり得点に貢献はしていないが、これまでの部記録を更新する16"42という好記録でありまだまだ伸びが期待できそうである。

◎差し入れをくださった先輩(敬省略)

古沢 博之(S63) 永井 雅人(H18)

2名の先輩から差し入れをいただきました。ありがとうございました。こちらで把握できずにお名前を掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら申し訳ございません。

○第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 於 仙台市

杜の都仙台を舞台に開催されました。この大会は、昨年度上位6位までに入賞したシード校、各地区を勝ち抜いた代表校、東北学連選抜(オープン参加)で争われます。

東北大学からは鈴木(3)が東北学連選抜として選ばれていました。当日は鈴木が5区を走ることになりました。

出場選手からのコメントを紹介します。

全日本大学女子駅伝を終えて

鈴木 絢子

10/26に行われました第32回全日本大学女子駅伝にて、東北学連選抜チームとして5区を走らせていただきました。結果としましては、第5区(9.2km)33'35区間順位24位、東北学連選抜としての総合順位は22位相当でした。

タイムや順位には反省点ばかりが残りますが、今はそれ以上に4年間、全女を走れたことを幸せに思い、充実感でいっぱいです。まさか、自分が走るとは思ってもみなかった3年前。最長区間を走る事が不安で、緊張で押しつぶされそうだった2年前。ケガのせいかなスランプなのか、とにかく思うように走れないまま全女当日を迎えてしまった1年前。そして、4度目の出場となった、今年。

今シーズン、自分は4年間の中で最も不調だったと言えます。今年は走れないかもしれないと、何度も思いました。それでも、どうしてもどうしても、全女を走りたかった。その気持ちと、頼ってくれる後輩の存在を支えに走っていました。パートを問わず支えてくださった陸上部の皆さんや、気にかけて励ましてくださったOB・OGの皆様にはどんな

に救われたかわかりません。本当に、ありがとうございました。

今年ほど、学連選抜入りできたことを喜んだことはありませんでした。コース試走も練習会もこれで最後かと思うと、思わず感傷的になってしまうことがありました。レースは、4年間の集大成となるものにするべきところを、出場することに意義があるような、そんなレースとなってしまう、応援して下さった皆様には申し訳なく思っています。それでも、本当に充実したレースでした。心から、楽しかったと言えるレースでした。

私は今年で引退しますが、より多くの後輩に全日本大学女子駅伝を経験して欲しいと思っています。そしていつか、いつか、杜の都を東北大チームとして襷をつなぎ走る日が来るまで、挑戦することをあきらめないで欲しいと思っています。

最後になりますが、全女開催にあたりご尽力下さった東北学連の皆様、応援して下さいましたOB・OGの皆様、そして補助員や応援をしてくれた部員一人一人に、心から感謝申し上げます。支えて下さる人たちがたくさんいて、自分は本当に恵まれていると痛感するばかりです。私も残りわずかな競技生活ですので、様々な面で少しでも陸上部の力になれるよう頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。

○秩父宮賜盃第46回全日本大学9駅伝対校選手権大会 於 名古屋～伊勢神宮

9月20日に仙台大学で行われた東北地区予選を1位で通過し、2年連続の出場となりました。今年は歴代最高タイムの更新を目標に臨みましたが、力及ばず達成には至りませんでした。しかしながら去年の総合タイムから25秒ほど速いタイムでゴールすることができました。各区間を走った選手と、今大会まで長距離PCを務めた碓井(3)からコメントを頂きました。

第1区 尾形翔平(M2)

先日の全日本大学駅伝にて、第一区を走らせて頂きました。昨年この一区で味わった悔しい思いを忘れず、これまでの一年間、最後の全日本に全てをかける思いで練習に臨んできました。レース中は落ち着いたペースで走ることができ、昨年よりも自分の走りができたと思います。しかしそれでも目標としていたタイムには届かず、自分の力不足を痛感する結果となりました。またチームとしても、他の国立大と大きな差をつけられてしまったことは重く受け止めなければなりません。私や他のM2の選手は今シーズンをもって引退してしましますが、後輩たちには今回感じたことを忘れずに全員で切磋琢磨して、再び伊勢路でリベンジを果たして欲しいと思います。

最後になりますが、OBやOGの方々、部員の皆さんにはこれまで多くのご支援、ご声援を頂きました。皆様の支えがなければ大学院までの6年間、競技を続けることはできなかったと思っています。本当にありがとうございました。



写真：号砲を待つ尾形

第2区 藤澤萌人(M1)

全日本大学駅伝で2区を走らせていただいた藤澤萌人です。昨年と同じ区間を走らせてもらうこととなり、とてもうれしく思うとともに、昨年の悔しい結果のリベンジだと心を燃やしていました。レース中はたくさんの方が応援してくださったり、陸上部の仲間が遠いところまで応援に来てくれたりしたおかげで、苦しい中でも最後までたれることなく走ることができました。結果は昨年よりもタイムは上がったものの、順位を2つ下げてしまい、内容の悪いところがあまりないと感じる分、より自分の実力不足を感じました。しかし東北大全体の結果は、昨年よりタイムを上げることができたので、チームの成長を感じることができたと思います。最後になりますが様々な形で応援してくださった諸先輩方や監督、コーチ、陸上部員そして保護者の皆さまに大変感謝致します。本当にありがとうございました。



写真：2区を走る藤澤

第3区 古澤哲平(M1)

この度、3区を走らせていただきました古澤哲平です。私は、学部時代は新潟大学に在籍しており、東北大学には大学院から入学しました。他大学の大学院に進学しても陸上を続けようと思った一番の理由はこの全日本大学駅伝の存在でした。大学3、4年の時、予選会ではチーム8番以内でゴールしていたにもかかわらず本戦は2年連続補欠でした。それが本当に悔しくてこの1年間がんばってきました。しかし、結果だけ見ると区間24位で昨年の出口より約20秒遅いタイムチームに迷惑をかけてしまったと思っています。正直悔いのあるレースでした。私はまだM1なのであと1回走るチャンスが残っています。伊勢路での悔しさは必ず伊勢路で返したいと思います。

最後になりますが、多大なる支援をしてくださったOB・OGの方々、そして遠い仙台から応援に来てくださった部員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真：3区を疾走する古澤

第4区 本間涼介(2)

今回4区14kmの長い区間を走らせていただきました。レースとしては私の区間から繰り上げスタートということで、多少覚悟はしていた部分もありますが、やはり悔しい気持ちが残っています。他の国立大がなんとか襷を繋ぐ中、私と他2チームが繰り上げスタートとなり、レースが始まりました。昨年の反省



写真：4区を走る本間

から、序盤は他の選手にとらわれず落ち着いたペースで入りました。終盤で2人抜いたものの、目標としていた大学とは更に差をつけられてしまう結果となってしまいました。今年には力があり、練習を引っ張っていただいていたM2の先輩方と走れる最後の全日でした。これからは私がPCとして、M2の先輩の走りに皆が近づけるようこのチームを引っ張ります。最後になりましたが、今回は寄付金をはじめ、様々な形でご支援をいただき本当にありがとうございました。来年も更に力をつけたチームで全日を走れるよう取り組みますので引き続き応援よろしく申し上げます。

第5区 菅野均(M2)

5区を走らせていただきました。最後の伊勢路でしたので、悔いの無い走りをしたと臨みました。しかし、序盤から繰り上げの集団にも離され、苦しい展開となりましたが、沿道に駆けつけてくださったOB・OG、短・中距離、フィールドの方々の応援のおかげで、最後まで走り切ることができました。ありがとうございました。1年生の時に、先輩方が伊勢路を駆け抜ける姿と、襷を繋ぐことができずに涙する姿を目の当たりにしてから、いつか自分も伊勢路で襷を繋ぎたいと必死に走り続けてきて、今回初めて襷を次の走者に繋ぐことができました。6年間陸上を続けてきて良かったです。残念ながら、チームの目標とした東北大記録の更新はなりません



写真：5区を力走する菅野
ですが、この目標はこれから成長する後輩に託したいと思います。必ずや来年こそは目標を達成し、さらに成長した姿を全国の舞台で披露してくれるはずですので、どうかこれからも長距離チームに対するご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。

第6区 石代剛之(M2)

全日本に出場するにあたり、OB・OGの方々のご支援・ご声援、本当にありがとうございました。

今年は私にとって節目の年でありました。個人として、もっと上のタイムを目指したのではないかという思いもありますが、現状を考えるとレース展開やタイムは十分な結果だと思っています。多くの支えによって満足のいくレースができたことに、感謝をしております。

チームとしても、厳しい天候でしたが昨年の総合タイムよりも良い結果となりました。しかし、目標に達することができませんでした。来年は私をはじめメンバーのうち3人が卒業し、また一から新しいチームとして大学記録の更新を目標に頑張っていきます。

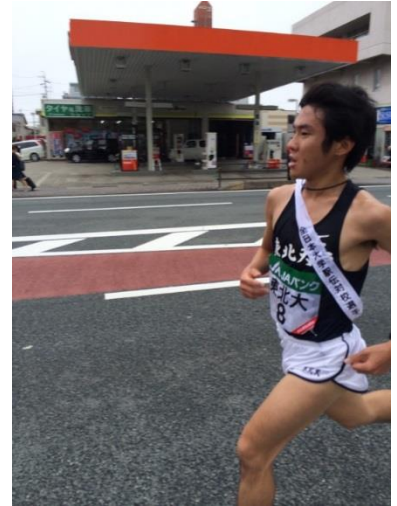
まだ成長途中のチームではありますが着実に力をつけてきているので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い致します。



写真：6区を走る石代

第7区 鈴木貴史(2)

今回私は7区を走らせていただきました。昨年は登録メンバーに選ばれはしましたが当日走らずに終わったことが非常に悔しく、次こそ、という気持ちでこの一年間練習を積んできました。結果として7区を任せていただいたものの、目標としていた東北大部記録に遠く及ばず、レースの内容にも満足のものになりませんでした。しかしこの一年間で距離を踏み続けたおかげで終盤の苦しい場面でもロングスパートで勝負を仕掛けられるなどの成長を感じるなど、今後に向けて多くのことを得られました。今回の試合における貴重な経験、大舞台で実力を出し切れなかった悔しさを忘れず一層の精進を重ね、来年再び伊勢路に挑戦したいと思います。最後になりますが応援やご支援をしていただいた皆様本当にありがとうございました

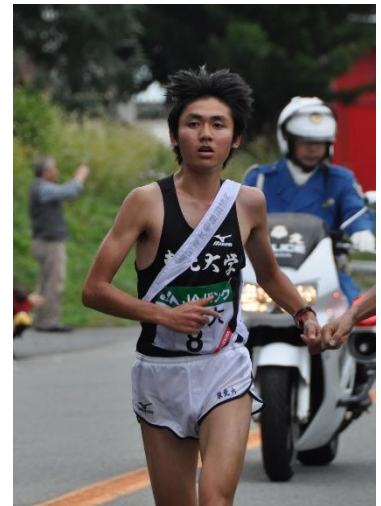


写真：7区を駆ける鈴木

第8区 高橋佳希(3)

今回、昨年に引き続き8区を走らせていただいた高橋です。自分のチームに限らず、チームが予選会で敗れてしまったり、故障や調子が上がらず本戦を走ることが叶わなかった選手が大勢いたりする中で、こうして二年連続で本戦の舞台に立てたことに対してとてもうれしく感じると同時に、これまで応援やサポートをしてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

個人の結果の方は63分19秒で区間19位でした。昨年よりもタイムは1分近く短縮することができましたが、区間順位は変わらず、昨年同様、実力不足を痛感させられる結果となりました。チーム全体としても昨年よりもタイムは短縮したものの、順位は落としてしまい、全国のレベルが自分たちの成長以上に上がっていることを実感しました。



写真：アンカーを走る高橋

来年以降は、今まで主力として長い間チームをけん引し続けてくれた院生の先輩方が抜け、さらに厳しい戦いが予想されます。今回の大会を通じて得た経験を活かし、また新たなメンバーでまずはしっかりと予選会を突破し、本戦では少しでも関東・関西の強豪校に肉薄できるように個人としてもチームとしても精進していきたいと思います。最後になりますが、試走や当日の応援、金銭面での支援などをしてくださったOB・OGの方々に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。

前長距離 PC 碓井将也

こんにちは。先日の全日本大学駅伝まで長距離PCを務めていた碓井です。先日の本戦の際は様々な方に試走のご協力やご支援をしていただきました。ほんとに多くの支えがあって本大会を無事終えることが出来ました。ありがとうございました。

レースのほうですが、総合タイムは5時間47分08秒で全体では23位でした。昨年と比べると25秒ほどタイムが縮まったことになります。この結果だけ見ると感じ方は人それぞれになると思いますが、私の中では悔しいという気持ちが正直なところ一番強いです。この一年、昨年を上回り東北大記録に挑戦するチームをつくることを目標としてメニューを組んできました。練習量、特に走る総距離を増やして全日本ほどの長い距離にも対応できる力をつけようと練習でも常々みんなに伝えてきて、合宿も含めて充実した日々を送れたと思っています。しかし全国の舞台は難しいです。思い通りの力を発揮することのできた選手が少ないのは、まだ力が足りない証拠です。



写真：碓井前長距離 PC から本間新 PC への襷渡し

しかし全国のレベルを生で経験できたのはものすごい大きなことなので、この現状を踏まえつつ、これからまた一年強いチームを目指します。そして来年も予選をしっかりと勝ち抜き本選でまた全力で挑戦したいと思っていますので、これからも引き続き応援宜しくお願い致します。ありがとうございました。

◎2014 年度秋保マラソン(11/4)

今年も恵まれた天候の下で開催することができ、現役部員と OB・OG が一緒になって良い汗を流しておりました。各部門の優勝者と参加なさった OB・OG を紹介します。

- ・ 9 km の部
 - 田中翔悟(2) 28'05"18
 - ・ 短距離の部
 - 本間大輔(4) 83'21"62
- ・ 18 km の部
 - 石代剛之(M2) 58'48"38
 - ・ 投擲の部
 - 田附遼太(M2) 91'18"85
- ・ 女子の部
 - 鈴木絢子(4) 66'05"36
 - ・ 跳躍の部(※9 km トップの選手を表彰)
 - 高橋拓実(2) 35'19"09

◇参加なさった OB・OG の方々(敬省略)

菅原質(S42)、宮崎鉄男(S43)、佐藤健二(S52)、佐藤源之(S55)、真山隆徳(S56)、遠藤正淑(S59)、吉田真人(H9)

◎自己ベスト更新者一覧(5/31~7/13)

- ・ 男子 200m
 - 本間大輔(4) 23"57 (+1.5)
 - (川崎陸上フェスティバル)
 - 佐藤洋介(3) 23"22 (±0.0) (個人選)
- ・ 男子 110mH
 - 本間大輔(4) 15"58 (+2.0) (個人選)
 - 工藤翼(1) 15"31 (+1.5) (東医体)
 - 楠木啓介(1) 16"09(+0.4)(仙台大記録会)
- ・ 男子 400mH
 - 佐藤洋介(3) 50"21 (個人選)
 - 楠木啓介(1) 57"64(24 大戦)
- ・ 男子 5000m
 - 北原慶汰(3) 16'11"35 (24 大戦)
 - 熊谷駿(2) 16'52"92 (24 大戦)
 - 藤原啓(1) 16'40"26 (24 大戦)
- ・ 男子 3000mSC
 - 菅野均(M2) 9'32"28 (東北選手権)
 - 熊谷駿(2) 10'39"92 (24 大戦)

- ・男子棒高跳
高橋拓実(2) 4m80 (北日本インカレ)
- ・女子 1500m
榎原真理子(3) 5'06"10 (個人選)

- ・女子 5000m
榎原真理子(3) 18'41"78 (全女予選会)
- ・女子円盤投
青木千景(2) 32m15 (個人選)

○秋季三秀総会のお知らせ

平成 26 年度秋季三秀総会を下記のように開催いたします。皆様ご多忙の折りとは存じますが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時 12 月 14 日 (日) 16 時 30 分～ (幹事会：14 時 30 分～)

場所 幹事会；片平キャンパス 片平北門会館 北門エスパス

総会：片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟 1F 講義室



▲片平北門会館



▲生命科学プロジェクト総合研究棟

○今後の日程

12 月 14 日 秋季三秀総会

3 月 春合宿

○編集後記

24 大戦や全日本大学駅伝といった部全体を挙げて向かっていく大会も終わり年内で残すのは各個人で出場する大会や記録会のみとなりました。気温も下がりなかなかモチベーションを上げにくい時期になりますが来年良い結果を残すためにはこの時期の鍛練が非常に重要になってくると思います。来年も良い結果を報告できるよう部員一同精進してまいりますので今後とも応援よろしくお願いたします。

文責 副務 出口武志

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp